



大洲農業高等学校 果樹班

前列左から

松浦 花奈さん(3) 武田 鈴さん(3) 横山 梨華さん(2)

後列左から

大野 将也さん(3) 菊池 祐征さん(3) 河野 颯汰さん(2)

柳野 尋人さん(3) 武田 海亜さん(3) 矢野 匠真さん(2)

()は学年

大洲農業高校果樹班の9人は8月に行われた日本学校農業クラブ四国大会の国土保全・環境創造部門で最優秀賞に輝き、10月22日(火)から岩手県で開催された全国大会に出場しました。農業を学ぶ高校生が日々の活動成果を発表し、知識や技術を競い合うこの大会は「農業高校の甲子園」とも呼ばれていて、果樹班は以前から地域に自生する植物「バショウ」の研究を続け、これまで3年連続で全国大会に出場中です。

今年度はバショウに多く含まれるミネラル成分のカルシウムに着目し、有機肥料として有効活用できないか調査研究を実践。調査研究には愛媛大学や一般企業も加わり、企業が販売している肥料の改良に役立つなど成果を上げ、地域資源としてさらなる活用が期待できるとの展望を示したことが高く評価されました。

果樹班の研究は、県内の環境保全活動に贈られる三浦保環境賞で知事賞を獲得するなど注目度も高まっていて、3年生は「バショウは昔から和紙の原料に使われるなど、この地域では身近な資源。たくさんの可能性を持っていると思う」と語ります。先輩たちの意志を継いで研究を続け、「目標はもちろん4年連続で全国」と話す2年生3人の目には、しっかりとした自信がうかがえました。

HighSchool | NOW

～市内5校の高校生によるリレーエッセイ～

Vol.94 大洲高等学校

みなさん、こんにちは！商業科3年の福山実夢と宮本湧羽です。「ONP♪」とは、「ohzu new product (大洲の新商品)」の略で、大洲高校商業科の課題研究をはじめとする活動の総称です。大洲高生から発信する“No problem(大丈夫、問題ない)”という思いも込めています。

今年は初めての活動として、市内にあるパン屋のyumehonokaさんにご協力いただき、大洲の特産品を使った新しいパンの開発を行いました。なんと！その一つである「大洲のしょうゆチーズ塩パン」が大洲ええモンセレクトに認定され、ONP♪の活動をより多くの人に知ってもらう機会となりました。

11月3日(日・祝)に肱南地区で行われたイベント「城下のMACHIBITO」では、キタ・マネジメントさんのご協力のもと、ライスカレー店を出店しました。試作ではカフェ霧隠れさんに監修してもらい、野菜はアグルビト(大洲市青年農業者協議会)さん、白米は令和8年度に統合する大洲農業高校さんから

仕入れました。

この活動を通して、少子化や空き家問題などの地域課題を知り、地域活性化を図る取り組みについて学ぶことができました。また、商業科の学びを実践する場にもなりました。関わってくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

商業科の活動の様子は公式Instagramで発信しています。これからも大洲高校は「仲間とともに、地域とともに」を合言葉に、よりよい大洲の未来を考え、全力で活動していきます！



一回は大洲高等学校肱川分校からです。一

我らに^{どこん}土魂あり 大農100周年

大洲農業高校が創立100周年を迎え、今年度は記念講演や人文字撮影などさまざまな記念行事が行われています。11月8日(金)に記念式典が開催され、多くの人が100周年を祝いました。

また、11月9日(土)に行われた創立100周年農業祭では100周年記念弁当や家庭クラブクッキー、農産物の販売に長蛇の列が。宇和島水産高校フィッシュガールのマグロ解体ショーや令和8年度に統合予定の大洲高校の生徒の協力もあり、100周年を飾るにふさわしいにぎわいとなりました。



感謝とおいしさを詰め込んだ100周年記念大農弁当



式典では生徒たちが育てた菊が舞台を彩りました



大洲高校の生徒と仲良くもたきを販売

大洲農業高等学校100年の歴史

県立大洲農業高等学校は大正14年(1925年)3月に旧大洲村をはじめ10カ町村でつくる学校組合によって設立。以降昭和27年に現在の名称となり、現在まで11,137人の卒業生を輩出しています。

変遷

愛媛県大洲高等農業補習学校(大正14年～)
愛媛県大洲高等農業専修学校(昭和2年～)
愛媛県大洲農業学校(昭和12年～)
愛媛県立大洲農業学校(昭和15年～)
愛媛県立大洲農業高等学校(昭和23年～)
愛媛県立大洲高等学校(昭和24年～)
愛媛県立大洲農業高等学校(昭和27年～)

沿革

大正14年3月 愛媛県大洲高等農業補習学校として設立
昭和23年4月 学制改革により県立大洲農業高等学校と改称
昭和24年9月 高等学校再編により、町内三校を統合し県立大洲高等学校と改称し、その農業部となる

昭和27年4月 県立大洲高等学校の農業科部が独立して、県立大洲農業高等学校となる 定員農業科70名
昭和40年4月 校訓制定 家庭科を畜産科と改称
昭和49年11月 創立50周年・体育館落成記念式典挙行
昭和58年4月 畜産科を募集停止し食品化学科を設置
昭和59年11月 創立60周年及び記念館落成記念式典挙行
平成3年12月 農業科募集停止 生産科学科設置
平成4年12月 生活科募集停止 生活科学科設置
平成26年4月 食品化学科及び生活科学科募集停止 食品デザイン科設置
令和6年11月 創立100周年記念式典挙行

校訓

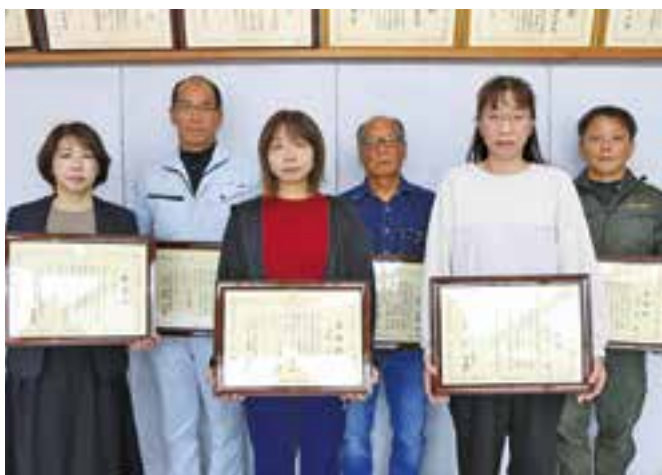
- 一、どこに出しても恥ずかしくない人間になれ
- 一、国家社会の役に立つ人間になれ



右は株式会社エイト日本技術開発 金 声漢 代表取締役

新たな時代の公共サービスに向けて

10月21日(月)、大洲市は株式会社エイト日本技術開発と技術連携協定を締結しました。この協定は、同社が有する社会資本マネジメントの知見を大洲市の目指す「Well-beingなまちづくり」に生かしながら、効率的な自治体運営や地域活性化を図ることを目的としたもので、今後は「公的不動産の有効活用」「大洲市の食文化・食材を生かした新たな情報発信」「地域おこし協力隊の多様化する活動への対応」などを連携事業として実施・検討していきます。



一次救命への協力に感謝

7月に歩道で心肺停止状態となった男性を発見し119番通報や応急手当などを行い、社会復帰に貢献したとして、大洲地区広域消防事務組合は10月21日(月)、市内の男女6人に感謝状を贈呈しました。6人は「勇気を出して手伝ったことで命を救えてよかった」「救命講習で習ったことが役に立ったので地域で受ける機会が増えればいいと思う」と話していました。

【表彰されたみなさん (写真左から)】

上野 裕子さん、堀江 幸男さん、大塚 憂紀さん、
沖野 忠直さん、堀江 智恵美さん、古谷 貴一さん



かわいい仮装で大集合

10月26日(土)、白滝地区で「白滝ハロウィンナイト」が開催されました。このイベントは、地域の活性化につなげようと地元団体が企画したもので、伊予白滝駅には地域の子供を中心に約40人が、思い思いの仮装をして集まりました。この日運行されていた伊予灘ものがたりをみんなでお見送りした後、地区内に向けて出発。民家を訪問した際には子供たちが「トリックオアトリート！」と元気に声を上げ、お菓子のプレゼントをもらっていました。



子供たちに絵本のプレゼント

心豊かな子供の成長を願い、国際ソロプチミスト大洲から市内3カ所の保育施設へ合わせて約100冊の図書が寄贈されました。10月31日(木)には東大洲こども園で贈呈式を行い、絵本を受け取った5歳児クラスの子供たちからはお返しに歌のプレゼントが。子供たちは「本を読んでくれて、歌を聴いてくれてありがとう」と大きな声であいさつし、みんなで仲良く真新しい絵本を開いて読んでいました。

参加者みんなが「まちびと」に

11月3日(日・祝)、大洲まつりに合わせて「城下のMACHIBITO」が肱南地区で開催されました。このイベントは、古民家再生で生まれ変わった町並みや店舗を活用して100年前の大洲の町並みを再現するもので、今回は国内外から約100店舗が出展し、多くの人でにぎわいました。和装やモガスタイル、蝶ネクタイなどレトロな装いで買い物や食べ歩きを楽しむ人の姿も多くみられ、この日の肱南地区は、古くて新しい大洲の町並みならではの雰囲気包まれました。



秋の河辺を歩く「龍馬脱藩の道」

河辺地域の恒例イベント「わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」が11月10日(日)に行われました。

早朝、河辺ふるさと公園に集合した参加者たちは「エイエイオー」と氣勢を上げて出発し、2つのコースにそれぞれが挑みました。第1回から全て参加している人もいるほど根強いファンも多いこのイベントですが、36回目となる今回は、毎年9月の開催日を11月に変更。8歳から84歳までの71人が、赤く色づき始めた河辺の自然を楽しみながら歩きました。



氣勢を上げる参加者のみなさん

市民のつどいを開催しました

11月10日(日)、福祉と健康づくりを推進する「市民のつどい(社会福祉大会)」を総合福祉センターで開催しました。書家の金澤泰子さん(左)と翔子さん(右)親子の講演会と揮毫パフォーマンスには多くの人が詰めかけ、会場は超満員。ダウン症の書家である翔子さんを娘に持つ泰子さんによる障がい者の自立についての講演では皆深くうなずきながら聞き入り、翔子さんがパフォーマンスで力強く「飛翔」の文字を書き上げると、会場は大きな拍手に包まれました。



先哲に思いを馳せながら

郷土の先哲顕彰事業「蘭学者 武田斐三郎展」の開催に合わせて、模擬授業体験講座が11月10日(日)に古学堂で開催され、小学生から大人まで20人余りが参加しました。講座では大本敬久愛媛大学准教授を講師に迎えて伊予の古代文学を学び、その後は古学堂の見学会を実施。参加した学生は「この場所で昔の偉人も同じように学んでいたのかと思うと不思議な感覚」、「現在は学芸員を目指していて、将来はこの古学堂の魅力を子供たちに伝えたい」と感想を聞かせてくれました。



【具たくさん根菜汁】



材料（4人分）

鶏もも肉	200 g
ダイコン	140 g
ゴボウ	100 g
サツマイモ	100 g
ニンジン	60 g
青ネギ	8 g
かつおだし	800 g
油	大さじ1
塩こうじ	大さじ2
酒	大さじ2
みりん	大さじ2

A

作り方

- ① 鶏もも肉はこま切れ、ダイコン、ニンジンはいちょう切りにする。
- ② ゴボウは斜め切りにして水にさらし、水気を切る。
- ③ サツマイモは一口大に切る。
- ④ 青ネギは斜め切りにする。
- ⑤ 鍋に油を熱し、①②を炒める。
- ⑥ 全体に油が回ったら、かつおだしを入れ、サツマイモを加えて煮る。
- ⑦ サツマイモが軟らかくなったら、Aを加えて味を調える。
- ⑧ おわんに盛り付け、④を散らす。

根菜の栄養

根菜類はエネルギー源となる糖質が多く含まれ、食物繊維やビタミンC、ミネラルなどの栄養素も豊富に含んでいる野菜です。食物繊維は糖質の吸収を緩やかにし、血糖値の上昇を抑制する働きがあります。ビタミンCは、ストレスや感染症などに対する抵抗力を高める効果が期待できます。



【レシピ提供：健康増進課】

CDO補佐官 鈴木邦和の

第24回

DXのすゝめ



最近、多くのコンビニでセルフレジが増えていますが、JR高輪ゲートウェイ駅では、そこからさらに発展した「無人コンビニ」が数年前から設置されています。

この無人コンビニでは、従来のコンビニで行われるバーコードのスキャンも必要なく、客が商品を取るだけで購入することができます。天井に設置されたカメラと店内の赤外線、そして商品棚に設置された重量計のデータを組み合わせることで、最終的に「誰が何を購入したのか」をAIが正しく判断してくれます。そのため、商品を自分のバッグに直接入れてしまっても問題ありません。利用者は、出口に設置されたタッチパネルに表示されている金額が購入したものと同額かを確認した上で、交通系電子マネーを端末にかざして代金を支払い、ゲートを通して店舗の外へ出ることができます。

私も実際に利用してみたことがありますが、想像していたよりはるかに簡単で正確に会計できるので驚きました。こうした仕組みがコンビニだけでなくさまざまな店舗で普及していくと、利用者の利便性が向上するだけでなく、人手不足の解消にもつながるかもしれませんね。

文化財

ほっけ じしやくめんきょじょう

法華寺諸役免許状3通

市指定有形文化財(古文書)

法華寺所蔵/大洲市立博物館保管

これらの文書は、17世紀初頭の歴代大洲領主が法華寺に屋敷・寺領を寄進するとともに税などの諸役を免除した書状3通です。



慶長11年文書

1通は藤堂高虎が領主であった慶長11年(1606)、次いで脇坂安治の治政の慶長16年、3通目が大洲初代藩主・加藤貞泰の時代の元和6年(1620)の文書です。慶長11年の文書では、税負担を「永代免許」(長期間免除)する旨の記述と土地の広さが書かれていますが、残り2通は慶長11年文書の内容を新領主が追認する表現となり、文面が簡素化されています。

藤堂家・脇坂家および加藤貞泰の史料は希少である点や、藤堂以降に入部した領主の寺院政策の一端を知ることができる点において、極めて重要な史料といえます。

(昭和44年2月21日指定)

肱川と ともに

Vol.7

川は生命を生み出し、産業を育み、そして憩いの場となり、人々に癒やしと和みを与えてくれます。大洲市では、「災害に強いまちづくり」「活力あるまちづくり」を目指し、従来の対策に加えて、流域全体で水災害に備える「流域治水」への取り組みを進めています。



河川の水を貯留する機能を持つふれ愛パーク

気候変動の影響

近年は気候変動による世界の平均気温の上昇に伴い、降雨量も多くなるといわれています。2015年のパリ協定では、世界の平均気温の上昇を産業革命前と比べて2℃に抑えることを目標としました。

しかし、この目標が達成されたとしても、2040年ごろの日本の降雨量は全国平均で1.1倍、川に流れる水の量は約1.2倍、洪水の頻度は約2倍になると試算されています。

気候変動に対応するために

肱川では、従来から進められてきた「肱川水系河川整備計画」に加え、雨水の河川流出を抑える貯留浸透施設の整備やダムの事前放流など、国、県、流域の市町や民間企業、住民も含めた上流から下流までのあらゆる関係者による治水対策を『流域治水プロジェクト』として進めてきました。さらに令和6年3月には、流域治水の取り組みを加速化・深化させ、さまざまな手法を活用した対策の一層の充実が図られるように、気候変動を踏まえた『流域治水プロジェクト2.0』が策定されました。

みなさんと一緒に取り組む流域治水対策（水害の自分事化）

みなさんの行動が、「流域治水」につながります。

- ▷大雨のときに、お風呂の水を流さない
- ▷庭に雨水を貯めるバケツやタンクを置く
- ▷地域の清掃活動に参加し、川に流れるごみを減らす
- ▷避難訓練に参加し、水害時に迅速に行動・避難ができるよう日頃から備える
- ▷田んぼダム（田んぼの落水口に特別な堰板を取り付け、雨水をゆっくりと排水し、水路や河川の水位の上昇を抑えるもの）を実施する

あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」のイメージ



一つ一つは小さな事かもしれませんが、みなさんが取り組めば大規模な水害を防ぐことにつながります。例えば大雨時にお風呂の排水を止めれば、大洲市では一般的な小学校プール約11杯分の水が川に流れ出すのを防ぐ治水効果があります。

美しい自然と歴史が織りなす肱川は大洲市の宝です。流域治水で水害に強く、安心して暮らせるまちづくりを共に目指しましょう。

